

令和2年3月31日

岩沼市議会議長 飯塚悦男 殿

会派名 自由民主党・岩沼市民会議

代表者名 会長 佐藤剛太



調査研究等報告書

実施期日	令和2年3月30日（月）～令和2年3月31日（火）
参加者氏名	佐藤剛太、菊地忍、大村晃一、寒風澤敦司、酒井信幸
調査地等及び調査事項等	(1) 調査地・研修場所（岩手県滝沢市） 日時 令和2年3月30日 午後1時30分～午後3時 調査・研修内容 ① ビックルーフ滝沢 ※ 複合施設の視察（従来型の公共施設ではない、稼ぐ複合施設としての運営を視察）
	(2) 調査地・研修場所（岩手県紫波町） 日時 令和2年3月31日 午前9時30分～午後0時 調査・研修内容 ① オガール ※ PFI事業の視察（民間の資金とノウハウを活用し、公共サービスの提供を民間主導で行っている事業を視察）

※ 別途報告書を作成の上、添付してください。

※ 報告書には、報告者氏名、調査・研修目的、調査・研修内容及び効果・成果等を記載の上、その他調査・研修内容が分かる資料（視察時資料、研修資料等）を添付してください。

I	調査・研修地	岩手県滝沢市（ビックルーフ滝沢）
	調査・研修年月日	令和2年3月30日（月） 午後1時～午後4時
	調査・研修項目	稼ぐ複合施設の運営状況について
	調査・研修内容等	<p>(1) 施設整備の経緯について</p> <p>平成24年に「滝沢村交流拠点施設複合施設設計業務プロポーザル」で選定された案を基に、建設推進委員会、プロジェクトチーム会議、作業部会ワークショップなどで議論を重ね、また、ユニバーサルデザイン の専門家やホールの専門家の意見を取り入れながら、ビックルーフ滝沢 の実施計画が取りまとめられた。平成26年、滝沢村から滝沢市へ市制 移行し、新生滝沢市のシンボルとして岩手山の稜線をイメージした大屋 根の下、みんなが集うことをモチーフに、「みんなでつくるふれあいの 大屋根」の実現に向け施設工事に着手し、平成29年4月にグランドオ ープンとなった。</p> <p>(2) これまでの利用状況と問題点について</p> <p>交流拠点複合施設として、「生きがい、発見、創造」を目的として、 様々な活動が複合化されることで、一つの拠点となり、交流を生み出し ている。施設は、大ホールや会議室などの“コミュニティセンター”、 市民の知の集積となる“図書館”、そして観光案内、産地直売、レスト ランなど滝沢をギュッとつめこみ、「知る」「味わう」「楽しむ」を体 験できる“たきざわキッチン（産業創造センター）”からなる3つの大 きなゾーンで構成された複合施設となっている。従来型の公共施設では なく、稼ぐ複合施設としての運営を行っているため、市民が利用する場 合、使用料の減免措置は行っていない。</p> <p>なお、図書館だけは市の直営となっており、利用時間が異なっている ため利用者に不便をかけている。</p> <p>(3) 今後の取組について</p> <p>滝沢市の名物となる商品の開発や防災拠点基地としての整備強化、施 設サポーターの募集と育成等を行っていく。また、市で運営している図 書館を今後、利用者がよりよく使用できるよう指定管理者制度に移行し て、運営管理することを考えている。</p>
	まとめ (調査・研修による成果・効果)	<p>ビックルーフ滝沢は、各施設の利用料金は低料金に設定されており、フ リースペースが自由に利用可能であり、子どもの遊び場としても親子がゆ っくりと過ごせるスペースとなっている。これらのことにより、レスト ラン、産地直売等と消費行動とが繋がり、滝沢市が目指す新しい賑わいを 創出している。</p> <p>本市においても、これからの施設整備に当たっては、行政主導ではなく 民間の先進的な意見を積極的に取り入れた柔軟な取組をしていくよう提 言したいと考える。</p>

II	調査・ 研修地	岩手県紫波町（オガール）
	調査・研 修年月日	令和2年3月31日（火） 午前9時30分～午後0時
	調査・ 研修項目	P F I 事業による施設の運営状況について
	調査・ 研修内容 等	<p>(1) 施設の概要について オガールは、J R 紫波中央駅前の町有地 1 0 . 7 ha に町役場の庁舎、官民複合施設、体育館、図書館、ホテル、住宅（店舗あり）等を P F I、定期借地、多様な P P P 手法等を駆使した複合施設である。平成 1 9 年、町長のリーダーシップのもと、公民連携元年を宣言し、確保した町有地を活用して財政負担を最小限に抑えながら 計画を進め、随時施設が拡充され現在に至る。</p> <p>(2) これまでの利用状況と問題点について 8 種の飲食店や 7 つの販売店、3 つのクリニック、そのほかにも 2 つの体育館、ホテル、図書館、町役場、サッカー場、スポーツジム、美容院、複数のレンタルスペース、様々なサービス業などが入った複合的な施設となっている。また、中央には芝生の広場があり、ひとつのまちのように沢山の交流が生まれている。 民間の資金とノウハウを活用し、公共サービスの提供を民間主導で運営している。 問題点としては、隣接する駐車場をパーク＆ライドとして活用しており、ピーク時に近場での駐車スペースを確保することが喫緊の課題となっている。</p> <p>(3) 今後の取組について 公的な資金に頼るのではなく、民間の融資を基に厳しく審査されている施設をしっかりと運用し、集客力を高めていく。その収益を維持管理に充て、実質の町負担をなくし、収益を生める公共施設として、公と民の共助の関係を今後も続けていく。</p>
	ま と め (調査・研 修による 成果・効 果)	<p>オガールプロジェクト全体の利用者は年間 1 0 0 万人を超え、マルシェの売上金額だけで 5 億 3 , 7 0 0 万円を生み出しており、エリアの従業員数は 2 5 7 名（役場職員除く）と、多くの雇用を生み出している。 本市においても、P F I 事業等の導入を積極的に進め、民間の先進的な意見を取り入れた柔軟な取組をしていくよう提言したいと考える。</p>